JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	野生生物保護学会（金沢大会）開催報告
Author(s)	敷田，麻実
Citation	Wildlife Forum, 11(3-4): 85-85
Issue Date	2007-03
Type	Article
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/16972
Rights	Copyright (C) 2007 「野生生物と社会」学会. 敷田麻実, Wildlife Forum, 11(3-4), 2007, pp.85-85.
Description	

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

ワイルドライフ・フォーラム 11(3-4) :85, 2007

大会報告

野生生物保護学会（金沢大会）開催報告

学会員の参加１６８名，シンポジウムで学会の方向性を議論

敷田　麻実

野生生物保護学会会長

11 月 18 日から 20 日までの 3 日間，金沢工業大学で「野生生物保護学会」を開催した．

本学会は 11 年前の 1994 年に，大型ほ乳類を中心とした動物や植物の保護・保全にかかわる研究者によって創設された．学会は，生態学や生物学の専攻の研究者にとって，実践的な保護・保全活動を前提にした調査研究が発表できる場として，新鮮な感覚で受け入れられてきた．

大会に参加した学会員は 168 名であり，参加者数の心配は杞憂であった．最終日のシンポジウムでは学会員＋一般の参加者で 229 名にもなった．また参加者のうち 70 人あまりが大学生や院生であり，若い参加者が多く集い，活気のある学会になった．今回の学会は，野生生物研究者が多い太平洋側の都市部から離れた日本海側で開かれる学会とあって，当初参加者数の減少が懸念されていたが，実際には昨年以上に多くの参加者が参加した．

研究発表にかんしては，口頭発表が 18 件，ポスター発表が 21 件とほぼ例年通りであった．また，テーマ別集会が 9 会場と盛況であった．口頭発表が意外に少ないが，テーマ別集会の中では，テーマに関係する研究者らによる口頭発表が活発に行われており，実際には今回も，「行政と研究はどう協働するか」など興味あるテーマで，多数の発表があったことに変わりはない．

また，最終日には『野生生物保護の可能性と未来』と題した学会主催の公開シンポジウムを行った．このシンポジウムでは，野生生物保護のために，地域でどのような協働ができるかが課題になっており，それがシンポジウムの副題「野生生物とのかかわりのための協働」にそのまま示されている．シンポジウムでは，「よそ者」論で有名な東京大学の鬼頭秀一先生に，野生生物と人の関係のあり方についての基調講演をしていただき，その後，野生生物とのかかわり方の異なる 6 名のパネリストで，集中的に議論した．先日のコウノトリの野生復帰のニュースが印象に残る，コウノトリの郷公園の池田先生（本学会の副会長）の苦労話には，野生生物と人の関係と言うより，野生生物をとりまく人と人の関係の重要性を訴えてもらった (詳細はフォーラム誌に掲載予定).

ところで最近は，他の学会でも「学会と社会との関係の見直し」議論が進んでいる．その好例としては農業土木学会を上げることができる．当該学会では，背景はともあれ，社会的な位置づけを明確にするために学会名の変更まで検討している．そのため，この野生生物保護学会でも，「いかに社会に必要とされる学会でいるか」と言う点について，今後 1 － 2 年集中的に議論を進めたい．その結果がすぐに出せるとは断言できないが，学会の提供するサービスとその評価がきびしくなる中で，学会も新たな展開を求められているのであり，停滞は許されない．